

日本海・瀬戸内海・太平洋 縦断 技術士会（岡山大会）

フォトレポート

島根県技術士会 広報部

令和7年10月4日（土）に倉敷市立美術館において、「2025年度 日本海・瀬戸内海・太平洋 縦断技術士会（岡山大会）」に参加してきました。

三部編成で開催されました。

第一部では、「歴史と技術の融合技術の融合～地域から未来を創る～」というテーマで、島根県、鳥取県、岡山県、香川県、高知県の各技術士による発表が行われました。

島根県からは、石田 弘至会長が「鉄道遺構を学びの場とする『エンジニアツーリズム』～新たな発見と自己変革を促す先人の知恵～」と題してしました。旧三江線の鉄道遺構の魅力や、技術・ものづくりを軸とした学びの旅であるエンジニアツーリズムの事例と効果について紹介されました。

島根県技術士会鉄道遺構研究分科会は、旧三江線と未成線である今福線とあわせて先人の高度な土木技術について調査・研究し、これらの土木遺産を後世に残す活動を行っています。

その他の発表も大変興味深いものでした。鳥取県からは「インフラヘリテージが地域を起こす」、岡山県からは「倉敷市の歴史的町並み発見～意図して残されてきた町並み～」、高知県からは「四万十市 四万十川沈下橋の景観と維持管理」、香川県からは「肱川の歴史と未来、かわまちづくりの歩み」と各地位の取り組みが報告されました。

第一部の会場であった倉敷市立美術館は、旧倉敷市庁舎で昭和35年に建設された建物で、昭和55年に市庁舎移転した後、倉敷市立美術館として再生され、令和2年に登録有形文化財に指定されています。

第二部では、倉敷美観地区の散策を行いました。白壁の蔵屋敷と柳並木が、江戸時代にタイムスリップしたかのような雰囲気を感じることができました。岡山県の本田技術士（元倉敷副市長）より、美観地区の町並み保存に関する説明をいただいた後、大原美術館コース、川舟流しコース、自由散策コースに分かれて、ゆったりとした時間の中で、心安らぐ散策を楽しみました。

そして第三部はレセプションパーティーでした。日本技術士会中国本部岡山県支部の川井支部長の太鼓演奏ではじまりました。



おいしい食事とお酒を楽しみながら、参加者同士で活発な意見交換を行う、楽しい時間を過ごしました。

第一部 発表会

- (1) 開会挨拶 川井 支部長 (13:00～13:05)
- (2) 来賓挨拶 倉敷市副市長 (13:05～13:10)
- (3) 発表①島根県「鉄道遺構を学びの場とする『エンジニアツーリズム』」 (13:10～13:30)
講師：石田 弘至（島根県技術士会 会長）
- (4) 発表②鳥取県「地域資産【インフラヘリテージ（IH）】が地域を起こす」 (13:30～13:50)
講師：伊藤 徹（鳥取県支部 名誉支部長）
- (5) 発表③岡山県「倉敷の歴史的町並み発見～意図して残された町」 (13:50～14:10)
講師：原 孝吏（ファーム・シンタックス 代表）
- 休憩 (14:10～14:20)
- (7) 発表④高知県「四万十市四万十川沈下橋の景観と維持管理」 (14:20～14:40)
講師：佐川 徳和（四万十市 西土佐総合支所長兼地域企画課長）
- (6) 発表⑤香川県「肱川の歴史と未来、かわまちづくりの歩み」 (14:40～15:00)
講師：児玉 裕美子（株式会社四電技術コンサルタント）
- (8) 次回開催案内 香川県にて開催 (15:00～15:10)

第二部 美観地区散策 (15:10～17:30)

- (1) 散策案内事前説明 原 幹事
- (2) 大原美術館前へ移動
 - ・コース1 美術館入館 ※入館料は別途徴収
 - ・コース2 美観地区散策（川舟流し）
 - ・コース3 自由散策
- (3) 自由解散

第三部 レセプションパーティー (18:00～20:00)

場所：倉敷国際ホテル